

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学7							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	2期	住吉 泰之		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
この科目では、比較的めずらしい骨折ではあるが後遺症によって非常に生活困難となる症例と日常生活において手指を使用することで発生する軟部組織損傷を学習する。特に前腕の解剖学的構造の理解は必須である。							
目標							
一般目標 (GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	損傷することによって手の機能を大きく損なうことが予想される前腕部を専門的知識として柔道整復学・理論編の各論から「前腕骨幹部骨折、前腕部軟部組織損傷」を習得する。						
到達目標 (SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前腕部損傷の理解のため解剖学的に構成する骨・筋・血管・神経が選択肢から正しいものを選ぶことができる 2. 橈骨骨幹部の骨折の発生機序を理解し、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことができる 3. 尺骨骨幹部の骨折の発生機序を理解し、特徴的な疲労骨折を選択肢から正しいものを選ぶことができる 4. ガレアジ骨折という脱臼骨折を理解し、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことができる 5. モンテギア骨折という脱臼骨折を理解し、合併損傷、難治性を選択肢から正しいものを選ぶことができる 6. 前腕両骨骨幹部の骨折の発生機序を理解し、転位・整復固定・難治性を選択肢から正しいものを選ぶことができる 7. 腱交差症候群の損傷鍵を把握ができる。 8. 前腕コンパートメント症候群の好発部位、症状、緊急性、検査を選択肢から正しいものを選ぶことができる 9. 正中神経、橈骨神経、尺骨神経の各神経損傷による手の変形、検査法を選択肢から正しいものを選ぶことができる 						
履修に必要な予備知識や技能							
人体の基本構造を学習した「解剖学」 柔道整復の基礎学習した「柔道整復理論・総論」							
教科書・参考書							
柔道整復学・理論編 改訂第6版(南江堂):教科書として使用 柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂):参考書として使用							
受講上の注意							
筆記と反復学習を怠らないこと。 教科書内容を理解するためには読めない漢字を必ず調べたり尋ねたりしていくこと。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チャックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合 (%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	履修範囲確認: 2-5 前腕部の損傷 A解剖と機能 【前腕部の解剖学的骨・筋・血管・神経の理解】			288-304	筆記用具 教科書		
第2回	B前腕骨幹部骨折①橈骨骨幹部骨折 【橈骨骨幹部骨折とくに転位、整復固定の理解】			290-293	筆記用具 教科書		
第3回	B前腕骨幹部骨折②ガレアジ骨折③尺骨骨幹部骨折 【ガレアジ骨折の脱臼部位、尺骨骨幹部骨折の疲労骨折の理解】			293-294	筆記用具 教科書		
第4回	B前腕骨幹部骨折④モンテギア骨折 【モンテギア骨折とガレアジ骨折の異なる点と難治性の理解】			295-296	筆記用具 教科書		
第5回	B前腕骨幹部骨折⑤橈尺両骨骨幹部骨折 【両骨骨幹部骨折の転位、整復固定、合併症の理解】			297-299	筆記用具 教科書		
第6回	C前腕部の軟部組織損傷 ①前腕コンパートメント症候群②腱交差症候群 【とくに前腕コンパートメント症候群の緊急性の理解】			299-300	筆記用具 教科書		
第7回	C前腕部の軟部組織損傷③末梢神経障害 a正中神経障害 【正中神経支配の復習と損傷時の症状の理解】			301-302	筆記用具 教科書		
第8回	C前腕部の軟部組織損傷③末梢神経障害 b橈骨神経障害 【橈骨神経支配の復習と損傷時の症状の理解】			301-302	筆記用具 教科書		
第9回	C前腕部の軟部組織損傷③末梢神経障害 c尺骨神経障害 【尺骨神経支配の復習と損傷時の症状の理解】			303-304	筆記用具 教科書		
第10回	本試験				筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
本校卒業した柔道整復師・接骨院勤務歴12年。 柔道整復師として施術現場とかかわる柔道整復理論を講義します。 また、本校のOBとして、特に重視するべき点をお伝えいたします。							
メールアドレス							
sumiyoshi@nihonisen.ac.jp							